

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社東京アブレイザル
東久留米(都) - 6	東京都	多摩第 4	氏名	不動産鑑定士 三角 誠

鑑定評価額	26,000,000 円	1 m <sup>2</sup> 当たりの価格	191,000 円 / m <sup>2</sup>
-------	--------------	-------------------------	----------------------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 7 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 7 年 7 月 3 日	(6) 路線価	[ 令和 7 年1月]	150,000 円 / m <sup>2</sup>
(2) 実地調査日	令和 7 年 6 月 27 日	(5) 価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	倍率種別	倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		東久留米市野火止三丁目 1 4 7 7 番 9 5 「野火止 3 - 2 0 - 1 4」				地積 (㎡)	( 136 )	法令上の規制等	
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給 処理施設状況	主要な交通施設との 接近の状況		1 低専 (40,80) 高度(1種)	
	1 : 1.2	住宅 W 2	中規模の一般住宅が多い 住宅地域		南西 4 m 市道	水道、 ガス、 下水	清瀬 1.8 km		( その他 )	
(2) 近隣 地域	範囲	東 0 m、西 100 m、南 50 m、北 10 m				標準的使用	低層住宅地			
	標準的画地の形状等		間口 約 10 m、奥行 約 13 m、規模 130 ㎡程度、				形状 長方形			
	地域的特性	特記事項 特にない		街路 基準方位、北 4 m 市道	交通 清瀬駅南西 1.8 km	法令 1 低専 (40,80) 高度(1種)				
	地域要因の将来予測	地域の価格形成に影響を及ぼす特段の要因変動はないことから、当面は現状のまま推移するものと予測する。								
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地						(4) 対象基準地の 個別的 要因	方位		+4.0
(5) 鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法	比準価格 191,000 円 / ㎡								
	収益還元法	収益価格 / 円 / ㎡								
	原価法	積算価格 / 円 / ㎡								
	開発法	開発法による価格 / 円 / ㎡								
(6) 市場の特性		同一需給圏は、東久留米市及びその周辺市にあり、主として西武池袋線・西武新宿線沿線のバス便エリアと考えられる住宅地域と判定した。主たる需要者は都心部への通勤者世帯並びに地縁的選好性を有する一次取得者層が大半を占める。バス便エリアであること等から利便性はやや劣るものの、一般的要因の影響を受けて地価は緩やかな上昇傾向にある。中心価格帯は、土地 1 3 0 ㎡程度で 2 千万円台半ば、新築戸建住宅で 4 千万円台前半から半ばと把握される。								
(7) 試算価格の調整・ 検証及び鑑定評価 額の決定の理由		当該地域は戸建住宅を中心とする住宅地域であり、居住の快適性や通勤の利便性等を重視する自己使用目的の取引が大半である。アパート等の収益不動産も若干みられるものの、賃貸需要は少なく収益性は低いため、収益還元法は非適用とした。よって、市場の実態を反映した説得力のある比準価格を採用し、指定基準地及び周辺公示地との検討を踏まえ、上記のとおり鑑定評価額を決定した。								
(8) 公規価 示準格 価と 格し をた	代表標準地	標準地	時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の標準価格 ( 円 / ㎡ )	内 訳	標準 街路 0.0	地域 街路 +2.0
	標準地番号						標準 交通 0.0		地域 交通 -1.0	
	東久留米 - 3								標準 環境 0.0	地域 環境 -1.0
	公示価格		[101.3]	100	100	[104.0]	192,000	補正 画地 +5.0	要因 行政 +4.0	
	199,000 円 / ㎡	100	[105.0]	[104.0]	100			正 行政 0.0	その他 0.0	
								その他 0.0		
(9) 指か 定ら 基の 準検 地討	指定基準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の比準価格 ( 円 / ㎡ )	内 訳	標準 街路 0.0	地域 街路 +2.0
	東久留米(都) - 3						標準 交通 0.0		地域 交通 0.0	
									標準 環境 0.0	要因 環境 +6.0
	前年指定基準地の価格		[102.0]	100	100	[104.0]	191,000	補正 画地 +2.0	要因 行政 +2.5	
	203,000 円 / ㎡	100	[102.0]	[110.8]	100			正 行政 0.0	その他 0.0	
								その他 0.0		
(10) 対年 ら象 標の 基準 検準 価付 地格 の等 前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 187,000 円 / ㎡			価 変 動 形 成 状 況 要 因 の	{ 一般的 要 因 }	雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、景気は緩やかに回復し、住宅需要についても概ね堅調であり、地価は緩やかな上昇傾向にある。				
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点) である場合の検討									
	代表標準地	標準地								
	標準地番号	-								
	公示価格	円 / ㎡								
	変動率	年間 +2.1 %	半年間 %		{ 地域 要 因 }	一般住宅が建ち並ぶ住宅地域であり、地域要因に特段の変化は認められない。一般的要因の影響により地価は堅調に推移している。				